

## 岩手ようごの会 第7回実践交流会の報告&第8回のご案内



平成28年8月15日

岩手ようごの会 代表 堀籠ちづ子

「岩手ようごの会」実践交流会は、先生方からのご理解とご参加をいただき、お陰様で通算7回を開催しております。深く、感謝申し上げます。

さて、第7回実践交流会は、平成28年6月25日(土)、定期健康診断「脊柱及び胸部の疾病及び異常の有無」に追加された「四肢の状態」について実践交流を行いました。テーマが今年度施行ということから23名のご参加をいただき、楽しく熱心に交流が展開されました。その概要を報告します。

### \*実践交流会の様子\*

テーマ・健康診断必須項目に追加された「四肢の状態」を実施して

- 《実践報告》 ①大槌町立大槌学園小学部 山下千尋 先生 ②前沢明峰支援学校 田中千尋 先生  
③八幡平市立松尾中学校 熊谷郁子 先生 ④岩手県立紫波総合高等学校 中下玲子 先生  
《資料提供》 紫波町立片寄小学校 小野美保 先生

校種毎に4名の先生から、学校保健計画への位置付けと校内における準備、学校医との共通理解・協力地域の学校間や医師会、保健会等との連携、教職員や保護者の理解・協力を得る取組み、保健調査票とその活用、運動器(四肢の状態)健診の実際、事後措置、保健指導などについてご紹介いただきました。

### 《実践交流》

校種別グループに分かれ、参加者の皆さんの学校における「四肢の状態」の実施状況、実施後の評価と良かった点、課題・改善点について紹介し合い、その後に具体的な点について質疑応答を行いながら交流を深めました。次年度実施へのヒントをたくさんいただくことができました。

《小学校・特別支援学校》 準備と健診の実際では、学校医との共通理解に地域差がみられた。学童期の子どもは、しゃがみ込みと片足立ちが難しく担任の指導で練習した。担任の協力は不可欠である。また、事前チェックを一斉に行う場合は出来ない子どもへの配慮が必要であった。「笑い」が起きたり、肥満の子どもに難しい傾向がみられた。問診票でチェックされる子どもは、医師の所見と関連していたので保護者との共通理解を深めたい。本健診を実施してその意義を実感した。学校保健委員会で協議したい。

《中学校》 実施初年度の今年は、周知徹底、共通理解などに課題がみられた。内容としては、学校医との共通理解の難しさ、保健調査票の回収の難しさ、未記入など保護者からの理解を得ることが難しかった。健診の実際では、体育科との連携が大切であり、チェックの事前研修も大事であった。事前チェックは、身体測定で実施するのも効率的であった。事後措置や保健指導も地域の学区で統一した保護者文書を使い共通理解を図った。今まで脊柱側彎の見落としが多かったが、受診に繋がるなど本健診の意義を感じた。

《高等学校》 事前チェックの実施は、身体測定で実施していた学校3校、体育の授業で問診票を見てチェックが1校であった。どちらもスムーズに進行できたが、その精度を上げる必要がある(肥満度との関連あり)。問診票の回収が難しい。内科検診は、例年とほぼ変わらない時間で終了した。今回、四肢の状態を実施してみて、その意義を実感した。今後は、より良い事後指導を実施していくことが必要である。

\*まとめ\* 実施初年度の今年、各学校では、学校保健計画への立案、職員・保護者・学校医との共通理解を深めること、地域の学校間で共通認識を図るなど入念な準備の上、実施に臨んでいた。今後、より円滑な定着を図るために多角的な評価を行って改善し、次年度に向けていきたい。そして、事後措置や経過観察者の保健指導(含むマニュアル)は、更に検討・工夫を進めていく必要がある。

今回の改正で内科検診を実施してみて、その意義や健康診断の目的、あり方を考える機会となった。

## お知らせ

## 第8回 実践交流会のご案内 お申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。

\*日 時:平成28年9月3日(土) 10:00~12:30 \*場 所:アイーナ6F 団体活動室3

\*テーマ:「学校救急看護~救急処置事例検討 part II」

子どもの突発的な発病やけがの発生に対して救急車を要請するか否かの判断や校内の救急体制、保護者対応などで迷ったり困ったりしたことはありませんか。

第8回では、救急処置事例について机上シミュレーションを行い、救急時、私たちに必要な判断や行動についてワーク、交流していきたいと思っております。

ご参加をお待ちしております。可能な方は、当日、自校の救急連絡体制資料を1部ご準備ください。

